

令和 8 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立中和小学校
校長名	中野 健児

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・全体として「知識・技能」は良好に定着しており、特に第 2～第 5 学年は、全ての教科で全国平均を上回る。 ・算数は、全ての学年で昨年度よりも標準スコアが伸びている。 ・第 6 学年の英語は、全国及び区平均を上回り、本年度の強みとなっている。	・第 6 学年で複数教科(国語・社会・算数・理科)が全国平均を下回っている。国語と算数は全国に近い。一方、社会と理科が停滞している。 ・「思考・判断・表現」は学年進行とともに伸び悩みが見られた。学年によって、記述や活用問題に課題が見られる。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・多くの児童が、教師や友人に対して「努力を認めてもらえている」「気持ちを分かってもらえている」と感じており、学級内の心理的安全性が保たれている。 ・授業における発言や話し合い活動への参加意欲は高い。 ・自己の良さを認識している児童が多く、全体として自己肯定感が育まれている。	・学力下位層(C・D 層)では「理解してもらえていない」「相談できない」と感じる児童が見られ、安心感に個人差がある。 ・児童によって、ノートの取り方や誤答の扱いなど学習方法に違いがあり、「学び方の未確立」が学力差の一因となっている。 ・中学年後半から高学年にかけて対人関係のストレスが増加し、学習への集中や粘り強さに影響を及ぼしている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・授業内において、ミライシードやふりかえりシートを活用し、個別最適な学びを進めながら、基礎・基本の定着を図ることができている。 ・「10 分間スタディ」で漢字や計算などの基礎固めをし、授業中は各単元の学びを深めるための時間を十分確保することができている。 ・ロイロノートを活用し、互いの考えを比較・検討し合い、学びを広げたり深めたりすることができている。 ・校内研究を通して、「児童が主体的に考え、既習の知識をもとに科学的に説明する力」が身に付き始め、学習のふりかえりなど考えを述べる場面でその成果が見られる。	・家庭学習の提出率が低い児童や、学習道具がそろわない児童が各学級に 3～4 人いて、学習意欲に課題が見られる。 ・発達の特性や学力の定着の不十分さから、集団の中で落ち着いて学習できない児童が 2～3 名在籍しており、個に応じた支援が必要である。 ・児童の ICT 活用力は高いが、相手意識をもちながら考えをわかりやすく説明することが苦手な児童が多い。 ・中和小学校学習スタンダードに対しての指導の徹底や授業改善に対する意識に差があり、指導の積み重ねが十分といえない。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習指導の重点的取り組み

【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた指導改善と学びの質向上】

- ・各教科・領域の目標を達成するための指導の重点化
- ・問題解決型の学習を設定し、自力解決する力、自分で考えやり抜く力の育成
- ・視覚支援の活用や体験的な学習を重視し、児童の興味関心を高める指導の推進
- ・意見交流や比較・検討、発表の場を授業に組み込み、表現力・伝達力の育成
- ・「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の実現に向けた指導改善
- ・インプット型からアウトプット型への授業転換（練習・応用問題の時間確保）
- ・学校支援指導員、SST、時間講師等の活用による個別指導の充実

【ICTの活用】

- ・ICT機器（デジタル）と非ICT（アナログ）の効果的な活用できめ細やかな指導の充実
- ・思考ツールや資料データを活用した調べ学習や、意見表現・比較検討・情報集約の支援
- ・タブレットを活用した家庭学習・振り返り学習

【外国語教育の充実】

- ・外国語指導員の活用
- ・外国語担当教員を中心とした外国語活動の充実

【読書活動の推進】

- ・読書旬間に発達段階に応じた本を選び、読書の楽しさを体験させる支援体制の強化

【校内外の連携と研修】

- ・校内研究による学力向上の手立ての提案・実践
- ・授業観察（年3回以上）と相互授業観察による授業改善
- ・OJT研修、区小研、校外研修への積極的参加

(2) 学力調査の結果から明らかになった課題への取り組み

【全教科】

- ・諦めずにやり遂げる力を身に付ける。
- ・発表構成の指導と練習を通じて、論理的で伝わる発表を目指す

【国語】

- ・長文の読み取りでは、言葉の意味を丁寧に確認し、叙述を根拠に発言するよう指導する。
- ・自分の考えを分かりやすい表現で書けるよう、説明の順序や言葉選びを助言する。

【社会】

- ・絵図、グラフ、写真などの資料の見方、読み取り方など、色々な資料を複合的に見る力を授業展開の中で重視しながら学習を進めていく。
- ・ICT機器やタブレットを活用して、児童に興味関心をもたせるような教材を作成し、指導の充実を図る。

【算数】

- ・九九の確実な定着
- ・掛け算と割り算の活用の練習を増やす。
- ・「割合」「単位量」「比」の考え方を2～6学年で系統的に確実に定着するように指導する。
- ・ペア学習、グループ学習などの話し合い活動を通して自分から問題を解決する姿勢を身に付ける。

【理科】

- ・観察のポイントを明確にし、記述方法を指導することで、詳細で正確な記録を促す。
- ・学習計画表と振り返りシートを活用し、自己管理能力と学習の可視化を図る。

（３）学力向上のための取り組み**【理科のコア知識を活用し、思考力を育む授業の確立】**

- ・単元ごとに核となる概念を明確化し、児童が説明・考察に活用できるようにする。
- ・単元内・終了後に「学んだこと」「考えたこと」を記述・共有する時間を設け、理解を定着させる。
- ・進捗表や選択課題を活用し、児童が自分のペースで学習を進められる環境を整える。
- ・ペア・グループでの話し合いを通して、他者の考えを取り入れながら理解を深める。
- ・タブレットやデジタル教材を用いて、情報整理・表現を支援する。
- ・教員の成長支援として、ラウンドテーブル形式の授業検討会を実施し、対等な立場で授業を振り返り改善につなげる。

【基礎的・基本的な学習内容の定着】

- ・「10 分間スタディ」では、中休み後の短時間を活用し、学習機会の確保を図る。
→ミライシード、読書、ドリル等を活用し、基礎的・基本的内容の定着を図る。
- ・「放課後学習クラブ」では、学習支援指導員による週 3 日の補充指導を実施する。
→国語・算数を中心に反復学習を行い、基礎学力の向上を図る。
- ・「中和塾」では、C 層の児童に対して発展的な課題に取り組ませる。
→学習意欲の向上と B 層への引き上げを目指した指導を行う。
- ・「ふりかえりシート」を活用し、定着と自己調整力の育成を図る。
→理科・社会では問題データベースプリントを活用し、理解の深化を図る。

【教員の授業力向上】

- ・研究 0JT では、指導案及び指導方法を検討した後、事前授業を行う。授業内容を理解して校内研究に臨み、協議会で活発な意見交流ができ、教師力を磨く機会とする。
- ・教師のための 0JT 研修では、主任教諭が中心となり、若手教諭の悩みごと、自学研修を基本とするショート 0JT を週 1 回、ロング 0JT を月 1 回開き、コミュニケーションを大切にしながら研修を行う。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」における目標**（１）目標**

- ・全学年令和 8 年度との経年比較での全教科 DE 層の割合を 3 ポイント減少させる。
- ・全学年令和 8 年度との経年比較での全教科 AB 層の割合を 3 ポイント増加させる。
- ・全学年算数科で墨田区の平均正答率を上回る。
- ・記述問題の無回答率を 5 % 以上減少させる。